

# 女の子らしさ 男の子らしさ ってなに？



ガールスカウト岡山県連盟

ねらいとした テーマ	・年代に応じて、暴力の形態について知る。・ジェンダーの誤った固定観念に気付く。 ・自己防衛の方法、相談窓口があることを知る。
---------------	---

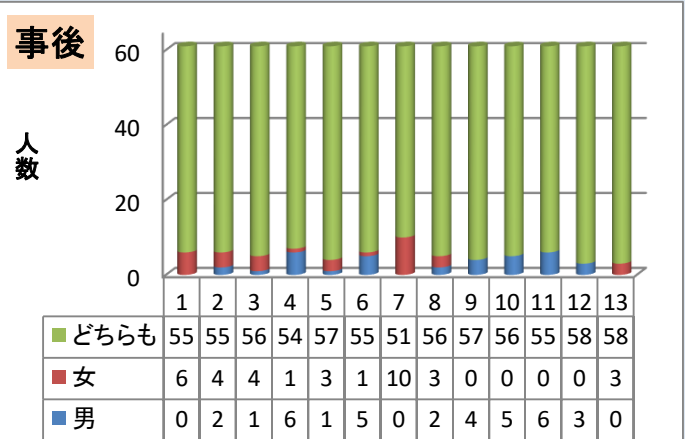
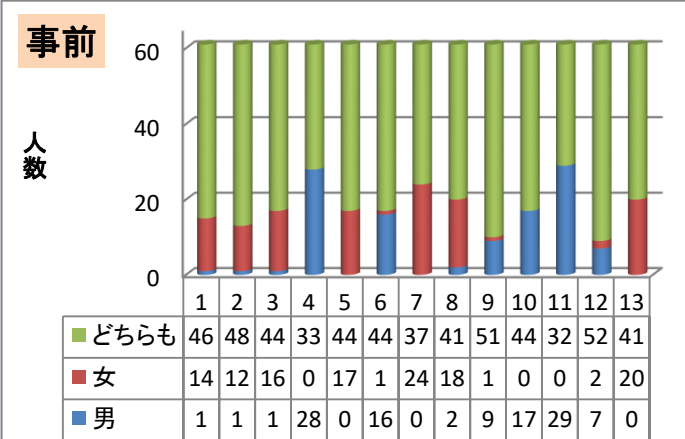
**【実施内容・方法】** 日時: 2019年12月8日(日) 10時~15時  
場所: 高梁市図書館 参加者72名

※事前・事後アンケート(別紙)

- ・コーナー1「誰の仕事？」
- ・コーナー2「おもちゃ選び」
- ・コーナー3「イヤだと言ってみよう」
- ・コーナー4「お話を聞いて…」
- ・コーナー5「様々な暴力の形態」

※クラフトコーナー、相談コーナーあり

**【成果・効果】** 全体的に、「男女どちらも」に○をする人が増えた



- (1. 料理をするのは？ 2. 食器を洗うのは？ 3. おうちの掃除をするのは？ 4. こわれた物を修理するのは？  
5. 赤ちゃんの世話をするのは？ 6. 会社で仕事をするのは？ 7. おしゃれが好きなのは？ 8. 甘い物が好きなのは？  
9. ブルーの服を着るのは？ 10. 髪が短いのは？ 11. 大工さんになるのは？ 12. お医者さんになるのは？  
13. 看護師さんになるのは？)

※事前アンケートで「女」と答えた人数が事後アンケートではかなり減ったのは、参加者が持っていた固定観念に気付いた結果であると考えられる。事前アンケートで「男」と答えた4番(壊れた物の修理)及び、11番(大工さん)は、事後アンケートでもやはり一番多いが、それでも「男性に限られた仕事」だという概念は薄れたと考えられる。

※年代別のアンケートでは、小学生以下が、一番大きな改善が見られた。それは、やはり家庭環境による影響が大きいと思われる。母親が常に家にいて、家事全般を行っている家庭は、料理等の仕事は女性がすることだという固定観念が強かったが、コーナーでのアクティビティによって、男性もすることだと気付いた参加者が多かった。逆に、年齢があがるにつれ、小学生以下と同じように、料理等は女性のすることだという回答が多かったが、固定観念だと気付く場合が多かった。

**【改善点等】**

- ・コーナーの内容が、小学生低学年には多少難しいものもあったが、だいたいの参加者は、丁寧に説明をすれば理解・納得していたようだが、家庭や保護者の影響が大きい子どもは、なかなか納得できずにいた。
- ・保護者世代以上の方に、もっと多く参加していただき、固定観念に気付いてもらいたい。

☆今年度もジェンダーについて研修を受けた中高生実行委員として行ったので、よい学びとなったと思う。